

# 山形県北部におけるイヌワシ・クマタカ・オオタカの 生息分布・密度・営巣地調査

山形北部希少ワシタカ研究会

代表 今井 正

山形県

はじめに

山形県北部、特に最上地方は、希少猛禽類の中でも注目すべき、「イヌワシ」「クマタカ」「オオタカ」の生息密度が高い。

当地方には、現在イヌワシが5ペア生息し、その内、3ペアの営巣地が確認されているものの、残り2ペアの営巣地が把握に至っていない。また、クマタカは、これまで当地方において、48ペアの生息が確認されていたが、今回、新たに4ペアの確認がなされ、現在、52ペアもの番いが生息していることがわかってきた。しかし、その営巣地が把握されている番いは22ペアであり、30ペアの営巣地が未確認である。そして、オオタカは未調査地が多く、どれ程のペアが生息しているか、把握できない状況の中で、5ペアの営巣地の確認に至っている。

これら3種の生息環境は、大旨の分類ができ、それらの生息環境の生態系のトップであり、イヌワシは「山岳生態系の王者」、クマタカは「森林生態系の王者」、そしてオオタカは「山麓・里山生態系の王者」として、これらの生息環境の豊かさを示すバロメーター的存在である。

しかし、この3種の生息密度が高い地域だけに、公共事業や民間事業と、この3種の摩擦も多くなる訳であり、その適切な環境保全、及び保護対策を講ずる上で、この地方の、この3種の生息分布、生息密度、営巣地等の調査が必要不可欠であり、それを特定することを目的として活動を実施した。

しかし、それは長年の蓄積されたデータと、将来、永きにわたっての調査・研究が必要である。

## A) イヌワシ

### I 生息概況

本種は、この地方に5ペア（番い）の生息が確認されている。未調査地もあり、これ以上の生息も否定できない。現時点で言えることは、5ペアは確実に生息し、確認に至っていることである。

### II 生息地

確認されている生息地は、神室山地に1ペア（M-A-1）、葉山山地に1ペア（M-A-2）、今神山地に1ペア（M-A-3）、丁岳山地に1ペア（M-A-4）、弁慶山地に1ペア（M-A-5）であり、この地方の森林地帯から山岳地帯的要素が認められる山地に広く生息している。そこで、この5ペアの生息地を図-2に示す。

（1ペアの行動圏の目安は、おおむね10km強四方で100km<sup>2</sup>強）

### III 営巣地

確認されている営巣地は、神室山地のペアが2ヶ所で合計2巣で、葉山山地のペアが1ヶ所で合計3巣、そして今神山地のペアが3ヶ所で合計3巣である。確認されている巣は、すべて崖に架巢している。しかし、丁岳山地及び弁慶山地の各ペアの営巣地は、確認できていない。

### IV 平成12年度の繁殖状況

営巣地が把握に至っている神室山地の営巣地においては、繁殖確認調査を4月16日、6月2日、6月4日の3日間、実施したが、2ヶ所で合計2巣ある巢内にヒナがいないこと

や、行動確認調査を実施した結果でも、繁殖失敗は確実であった。また葉山山地においても、4月30日に1ヶ所で合計3巢ある巢内の、繁殖確認調査を実施したが、神室山地と同様であり、5月21日に今神山地においても同じく実施したが、同様であったことから、営巣地が把握されている当地方の3ペアは、すべて繁殖失敗であった。

## B) クマタカ

### I 生息概況

本種は、この地方において生息密度が高く、これまで48ペアの生息が確認されていたが、平成12年度、新たに4ペアの確認に至り、現在52ペアの生息が確認されている。また、未調査地も多く、その他、何ペアが生息しているか、推測できないが、確認に至っていないペアの数は、かなり多くなると言える。

### II 生息地

この地方において、山麓から山地の森林地帯に広く、しかも連続して生息している。この地方の市町村別の確認ペア数は、新庄市3ペア、最上町6ペア、舟形町3ペア、金山町8ペア、真室川町15ペア、大蔵村5ペア、戸沢村10ペア、鮭川村2ペアである。これら合計52ペアの生息地を図-3に示す。

(1ペアの行動圏の目安は、おおむね4km強四方で16km<sup>2</sup>強)

### III 営巣地

この地方で確認されている営巣地は、最上町4ヶ所、舟形町1ヶ所、金山町4ヶ所、真室川町6ヶ所、大蔵村4ヶ所、戸沢村3ヶ所の合計22ヶ所にもなり、この中で平成12年度、新たに確認されたのは、6ヶ所にも及ぶ。これらすべての巣は、樹木に架巢しており、その樹種は、ブナ、ミズナラ、コナラ、トチ、スギ、キタゴヨウ、クロベであり、中には造

林スギに架巢しているペアもいる。

現在、この地方では52ペアもの生息が確認されていることから、今後、確認営巣箇所も、増えてくるはずである。

## IV 平成12年度の繁殖状況

営巣地が把握に至っている22ヶ所の内、最上町の2ヶ所、金山町の3ヶ所において繁殖成功し、1ヶ所に付き各1羽、合計5羽の幼鳥が巣立った。しかし、22ヶ所の内、5ヶ所において繁殖成功と低く、この地方においての平成12年度の繁殖成功率は、22.7%となる。

## C) オオタカ

### I 生息概況

この地方において、本種の観察、調査、研究はさほど進んでいない。つまり、未調査地が、かなり多く、どれ程のペア数が生息しているか、推測できないが、農耕地から山麓にかけての「里山」的な環境に確認することが多く、その生息密度は高いことを実感している。

### II 生息地

この地方においては、新庄市では泉田地区、横根山地区、赤坂地区、昭和地区、角沢地区等であり、金山町では、日当地区等に生息が確認されており、これらの生息地の環境で似ていることは、「農耕地と、隣り合う丘陵地」「農耕地と、隣り合う比較的平坦地」であることだ。この地方では、それと似た環境が農村部に多く見受けられることから、かなりの数が生息していることが伺える。

### III 営巣地

この地方で確認されている営巣地は、新庄市2ヶ所、金山町1ヶ所、大蔵村1ヶ所、戸沢村1ヶ所であり、合計5ヶ所である。営巣木は、スギ、アカマツ、カラマツである。

## IV 平成12年度の繁殖状況

営巣地が把握されている5ヶ所の内、新庄市の1ヶ所、金山町の1ヶ所、戸沢村の1ヶ所の、合計3ヶ所において、無事、繁殖成功に至った。

## まとめ

山形県北部の最上地方における、希少猛禽類中、特に注目されるイヌワシ、クマタカ、オオタカの生息概況、生息地、営巣地、平成12年度の繁殖状況について記したが、営巣地については、営巣箇所が特定できないように、あえて地形図を示さなかった。本来ならば、少なくとも25,000分の1の地形図にプロットしたいが、それでは、不特定多数の人に明確になり、人的要因により、繁殖を妨げかねない。

山形県内において、この3種のデータが最も得られているのが、この地方であると考えられる。しかしながら、生息地及び営巣地の特定には、この地方ですら、未調査地が、まだ多い。

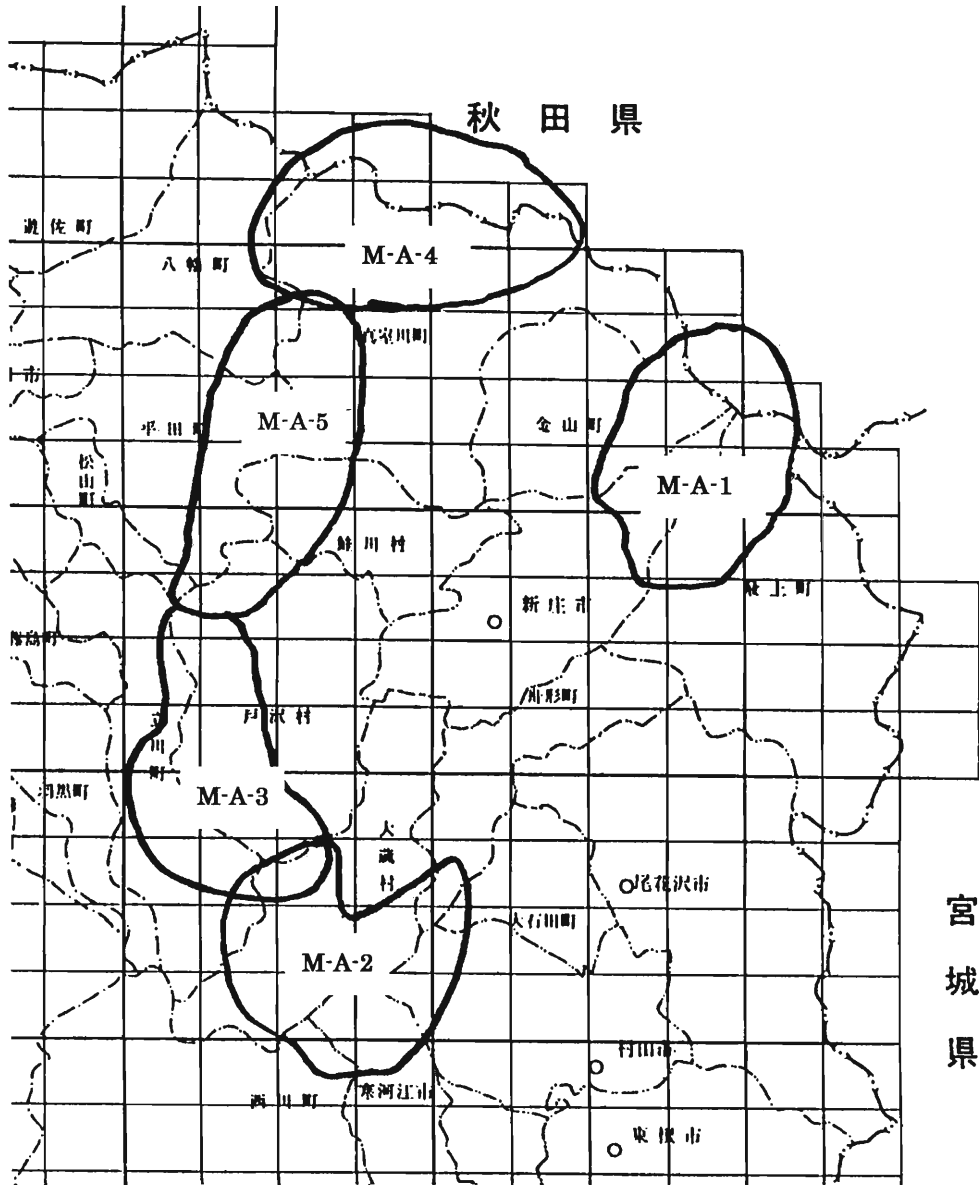
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）が平成4年法律第75号として制定され、この3種は国内希少種に指定された。それにより、公共事業や民間事業が、この3種の生息及び繁殖の妨げにならないか、しっかりとした調査を実施して、高い議論がなされる時代となっていることから、この3種の調査を進行し、「人間との共存」をもテーマに研究して行かなければならないと考えている。

## 引用文献及び引用報告書

- ・山形北部希少ワシタカ研究会：1999、山形北部希少ワシタカ研究会年報第1号
- ・山形北部希少ワシタカ研究会：2001、山形北部希少ワシタカ研究会年報第2号
- ・山形北部希少ワシタカ研究会：2000、山形県最上地方における希少猛禽類「イヌワシ」「クマタカ」「オオタカ」3種の核心データ報告書



図-2 最上地方におけるイヌワシの生息地（太線内が1ペアの推測行動圏）







普及啓蒙活動

第54回愛鳥週間・全国野鳥保護のつどい  
一野鳥シンポジウムにおいて代表が  
パネラーを務める  
平成12年5月13日



普及啓蒙活動

地元の高校にて代表が講義  
平成12年6月20日



普及啓蒙活動

東京・品川にて代表が講義  
平成12年11月30日



#### 学習会

希少猛禽類に関する学習会の状況  
平成13年2月17日



#### 調査・研究

神空山地におけるイヌワシの調査・研究会  
の現地においての打ち合わせ状況  
平成13年2月24日





神空山地のイヌワシの親子



積雪の巣とクマタカの雄